

新型コロナウイルス感染症への対応に関するリバネスの考え方

リバネスは、2002年の創業当時から、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」を理念に掲げ、少しでも世界を良くしたい、という思いに共感する研究者が集まって活動を続けてきました。優れたビジネスモデルや特許技術があったわけでもなく、自分たちが日々携わる”研究”の面白さ・重要性をどうにか社会に伝え、科学技術で世界を変える仲間を増やしたい、その一心でリバネスを立ち上げました。

我々が最初に手がけた事業は、科学技術をわかりやすく子供たちに伝える出前実験教室です。ちょうど「子どもの理科離れ」が社会問題として取り上げられ、科学技術の衰退が危惧される中、次代を担う若い研究仲間を作るべく、実験機材をかついで学校現場に出向き、研究の面白さと、研究者自身がそこにかかる情熱を直接子どもたちに伝えました。それを聞いた子どもたちの目の色が変わり、好奇心を抱き始めた時が、我々の職業である、「サイエンスブリッジコミュニケーター®」の始まりでした。

いま、リバネスは、国内外のグループ会社18社、世界9ヶ国に広がり、教育開発から人材開発、研究開発、創業開発と多角的に事業を展開しています。しかし、その根幹にあるのは、すべて「サイエンスブリッジコミュニケーター」です。業種、分野、立場を超えて「サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える」ことが、人類の知識や情熱をつなぎ、それらを組み合わせて、新しい価値を世の中に生み出すことにつながるのです。

我々はそれを「知識製造業」と名付け、サイエンスブリッジコミュニケーター®がインターネット上の情報やオンラインミーティングでは得られない、暗黙知や現場のリアルな課題を発掘し、学校・大学・企業・町工場あらゆる人とブリッジすることで、教育や人材育成、研究開発、ベンチャーの成長を加速させ、社会課題の解決に寄与しています。

このたびの世界的な感染症の流行においては、テレビやネット上でも様々な情報が飛び交っています。リバネスでも、国内外の感染状況を鑑みてどのような対応をとるべきか、議論を重ねてきました。しかし、このような厳しい状況の中でも、新しい新薬開発に挑む研究者、現場で治療にあたる医療関係者、自宅待機する人のためにも食料を製造・販売する食品関係者、生活に必要な物資を運び届けてくれる流通関係者など、社会インフラとして欠かせない仕事に取り組んでいる方々がいます。

また、我々の仲間のリアルテックベンチャーたちも、新しい技術やビジネスを生み出そうと、日々生き残りをかけて戦いを続けています。科学教育も研究開発も止めるわけにはいきません。それらの活動の基盤（知識インフラ）となるリバネスの知識製造業も、社員や周囲の方々の安全を守りながら活動を継続するべきであると考えました。

知識製造業を支えるサイエンスブリッジコミュニケーター®の業務は、実際の現場に足を運び、生きた知識を交換し合うことが重要になるため、オンライン上だけでは完結できません。

我々は、今後も、安全に最大限配慮しながら、コミュニケーションによって醸成される知識製造を止めることなく、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」活動を進めてまいります。

なお、同時に発表する「東南アジアプロジェクト延期のお知らせ及び新型コロナウイルス感染症対策方針について」を併せてご確認ください。 リンク：<https://lne.st/2020/04/06/lvns-release/>

2020年4月6日

株式会社リバネス

代表取締役 グループCEO 丸幸弘

代表取締役社長 COO 高橋修一郎

代表取締役副社長CTO 井上浄